

24. 島根県における民族伝承（俗信）よりみたる

結婚の実態

——未婚青年層，両親層，老人層別による——

島根農大女子家政短大 檀原そえ子

1. 山陰地方においては他地方に比べ「つきもの持ち」という特定の家筋が今なお強く残っている。この問題を正しく理解するためには最近の世相と近世の歴史との結びついた新たな変遷を考へてみる必要があるであつて、特殊家筋等は理論的には成立しない筈である。そして普通の生活では何んらの障害とならないのに、婚姻の問題となると、忽ち、世間の考え方が変わり両性の合意のみに基く自由な結婚の障害となるということであり、この問題の究明については特に家政学を担当する我々の立場から相当の努力を払う義務すら感ずるのである。

2. 特に都会における個人主義的傾向と比べ、氏族的結合が衰えていない農村において、視戚附合を拒絶されることが大きな打撃となるため、社会生活の障害となっているこの俗信を下記両極端の二地区を対象として (A)……社会学者・心理学者の実態調査を基盤として新生活運動実践をこの俗信から取りあげ指導力の最も濃密に加っている地区 (B)……殆ど調査並びに指導力の加らない地区を選び次の三層、(1)未婚の青年層、(2)適令期の子女を持つ両親層、(3)老人層、を対象として実態を比較研究し、将来家政学・家族関係の指導上更に地域社会の指導上、本問題の自然消滅を待たず俗信打破を目的とするものである。